



基本理念 この病院で最も大切なひとは医療を受ける人である

「令和6年度琉球病院芸術祭」

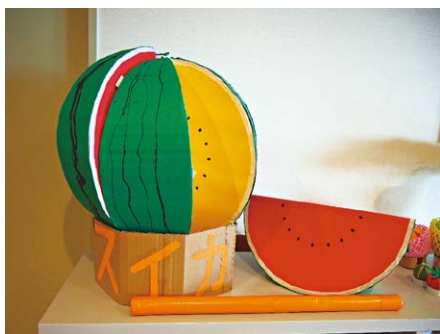
サービス向上委員会

当院では、入院やデイケアを利用されている患者さんの療養生活に彩を添えることを目的に毎年「りゅうきゅう芸術祭」を開催しています。

今年度も令和6年11月12日～13日にあしびな棟(リハビリ棟)において、「りゅうきゅう芸術祭」を開催しました。きめ細かいやさしいタッチの作品、スケールの大きい大胆な作品、色合い豊かで創造的・芸術的な作品、複数人で協働して完成させた作品など様々な創意工夫がされた作品が多く出品されました。

患者さんの日頃の創作活動が営まれている様子が想像されました。観覧者には自分の好みの作品に投票をしていただき、7つの賞を設けて、芸術祭の後に受賞者への表彰を行ないました。「院長賞」には2024年のニュースや院内の売店を取材した記事を掲載した「ゆいまーる新聞」という作品が選ばれました。

今後もスタッフ一同、患者さんの療養生活に彩を添えられる企画や取り組みを行なっていききたいと思います。



(西Ⅰ・Ⅱ病棟合作：スイカ割りゲーム)



(デイケア合作：月夜に咲く花)

● 地域医療連携室だより

精神保健福祉士 長根山 由梨

地域医療連携室では初診の相談だけではなく通院中、入院中の方の経済的な相談、就労に関する相談、社会資源に関する相談など様々な相談をお受けしています。患者さんやご家族の方、支援者からの相談など様々な方からのご相談があります。地域医療連携室の場所は受付隣となっておりますので、困り事がございましたらぜひお気軽に連携室までお声かけください。

院長



ふくじ やすひで
福治 康秀

1964年生まれ、那覇市出身、首里高校卒。
1993年琉球大学医学部卒、琉球大学医学部精神神経科入局。
95年那覇市立病院精神科、96年琉球大学精神神経科、2009年琉球病院精神科部長、2010年副院長を経て2014年琉球病院長に就任。
日本森田療法学会理事。
日本病院・地域精神医学学会理事。
琉球大学医学部 臨床教授。

診療科

- ・一般精神科
- ・こども心療科
- ・クロザリル外来
- ・アルコール依存症等外来

病床数

353床

- ・精神 151床
(一般精神・クロザピン専門・精神科救急)
- ・アルコール依存症 44床
- ・児童思春期ユニット 4床
- ・重症心身障がい 90床
- ・医療観察法 37床



路線バス 那覇BS(下り)または名護BS(上り)より
沖縄バス「77番名護東線」浜田バス停
下車徒歩3分

自動車 那覇市から40分沖縄自動車道金武
インターから名護向け5分

お問い合わせ

時間 8:30～17:15
(土・日・祝日・年末年始以外)
TEL 098-968-2133(代)
内線 231・234

地域医療連携室(直通)

TEL 098-968-3550
FAX 098-968-7370

治療抵抗性精神疾患への医療

精神科医長 木田 直也



クロザピンの治療状況

治療抵抗性統合失調症の患者さんに対して、当院では2010年2月からクロザピン (CLZ) 治療を開始し、登録症例数は延べ433例になりました。2025年1月のCLZ登録症例は1例で、他の精神科病院に通院中であった紹介患者さんでした。CLZ導入前には暴力行為や多飲水などの問題行動のために、隔離や身体拘束が必要な患者さんも多くいらっしゃいましたが、CLZ継続例では問題行動も消失、もしくは軽減し、ほとんどの症例で隔離や身体拘束は解除できています。週に3回のCLZ専門外来も行っていますので、患者さんのご紹介をお願いいたします。当院でのCLZ治療や沖縄県での地域連携の実際については、ノバルティスファーマ社の医療関係者向けサイトのクロザリル / クロザリル適正使用の流れ (<https://www.drsnet.novartis.co.jp/dr/products/product/clozaril/point/>) でも動画が公開されていますので、ご参照ください。

看護部教育担当からのご挨拶

教育担当師長 砂川 静香

皆様、こんにちは。教育担当師長の砂川静香です。日頃より、当院の教育活動にご理解とご協力を賜り、心より感謝申し上げます。私たち看護部の役割は、看護の質を向上させるために、より高い知識とより良い技術を提供することです。そのために看護師一人ひとりが成長し続ける環境を整えることが重要になると考えており、今後も研修やセミナーを通じて看護職員のスキルアップを支援してまいります。また、当院では未来の医療を担う看護実習生の受け入れも行っております。実習生の皆さんには現場での実践的な経験を通じて、医療の現場を理解し、必要なスキルを身に付けていただきたいと思います。皆様からのフィードバックを大切にし、より良い教育プログラムを提供できるよう努めていきたいと考えておりますので引き続き、よろしくお願い申し上げます。

感染管理室について

感染管理専従看護師 比嘉 理恵美

感染管理室では、院内における感染流行の予防を目的とした取り組みや感染予防対策に関する相談の対応を行っています。また、各病棟における感染症発生を見守り院内感染対策チームの一員として感染防止に対する日常業務を行っています。さらに、他施設とのネットワークを活用し、感染に対する相談・情報の共有等を行い自施設に合った感染防止策が行えるよう心がけています。精神科の感染対策は、一般病院に比べ施設環境や入院患者さんの高齢化等様々な要因が重なり、一人一人に合わせた対策が必要となります。日頃から最善な対策の実施に際し、患者さんやご家族、地域の方々にご理解とご協力を賜り心より感謝申し上げます。“患者さんが安全に入院生活を送れるように” また “職員が安心してはたらけるように” をモットーとし、引き続き感染防止対策に努めてまいります。今後とも宜しく願いいたします。

美ら島レスキュー2024のご報告

主任心理療法士 前上里 泰史

2025年1月17日に沖縄県が主催する大規模災害訓練「美ら島レスキュー2024」に当院DPAT隊員が県内のDPATと協働参加させていただいたので、そのご報告をいたします。この訓練は、市町村、自衛隊、消防、防災関連関係者、医療関係者等が大規模災害時の対応を想定した、毎年実施している訓練です。医療関係者だけでも、県災害医療本部、関係機関リエゾン、統裁部、ヘリ運用、各地域災害医療本部、各病院本部など、多くの関係機関が関わり、そのひとつとしてDPATも参加させていただきました。今回DPATの参加は、精和病院DPAT(医師、業務調整員)、平安病院DPAT(看護師)、琉球病院DPAT(医師)の混成隊員で構成し、参加させていただきました。当院からは真栄里副院長が参加し、訓練当日は沖縄県庁4階大講堂に参集し、机上訓練を行いました。沖縄県内で大規模災害が起ると、県外からの支援が遅くなることが予想され、外部支援が来るまでの間、県内関係機関で対応する必要があることが課題としてあげられました。



重症心身障がい部門

療育指導室長 金城 安樹

西Ⅰ、Ⅱ病棟では2月17日～28日にかけて療養介護サービス及び医療型障害児入所支援の個別面談を行いました。令和6年度障害福祉サービス報酬改定において、利用者の意思決定支援を推進するための方策があげられています。利用者参加において本人が希望する生活及びサービスに対する意向等を改めて確認することが重要となります。状態が悪化することが見込まれる場合を除いて、個別支援会議の利用者参加をすすめました。重度の障害により意思疎通が難しい事もありますが、ご本人の気持ちを汲み取るとともにご家族や多職種の意見を交え、各利用者の特性に応じた支援につなげたいと考えます。次年度は院外活動の拡大や行事への外部団体導入等を予定しています。病棟生活がより楽しく過ごせるよう利用者支援の質向上に取り組んでまいります。